



希少な動植物を学ぶ

北川湿原で観察会

延岡

橋」では清流と鮮やかな黄色のコウホネ、澄み渡った青空、湿原の緑のコントラストを楽しんだ。初めて参加した同市北一ヶ岡の柳田通さん(71)は、やまんな橋から見渡す湿原の景色に目を奪われた様子で「素晴らしい風景。見た瞬間にベイトーベンの『田園』が頭に浮かんだ」とクラシック愛好者ならではの感想とともに、「これまで訪れる機会がなかったのが嬉しい。近いうちにまた見に来たい」と再訪を望んでいた。

延岡市北川町の家田地区と川坂地区に広がる北川湿原で5日、観察会があり、市民ら約40人が参加、国内有数の湿原とそこに生きる希少な動植物について学んだ。

同湿原は「日本の重要湿地500」ラムサール条約湿地潜在候補地「県の重要生息地」に指定され、絶滅危惧種の動植物を観察する参加者

50種以上が生息する湿地。観察会は、貴重な自然を間近で感じてもらうと、市と地元を自然を守る会などが毎年開催している。

この日は、県環境保全アドバイザー成迫平五郎さん(76)の案内で、東側の山道を含む約3キロを散策。参加者は成迫さんの説明などを受けながら、湿原に広く分布する夕テ科のナカバノウナギ